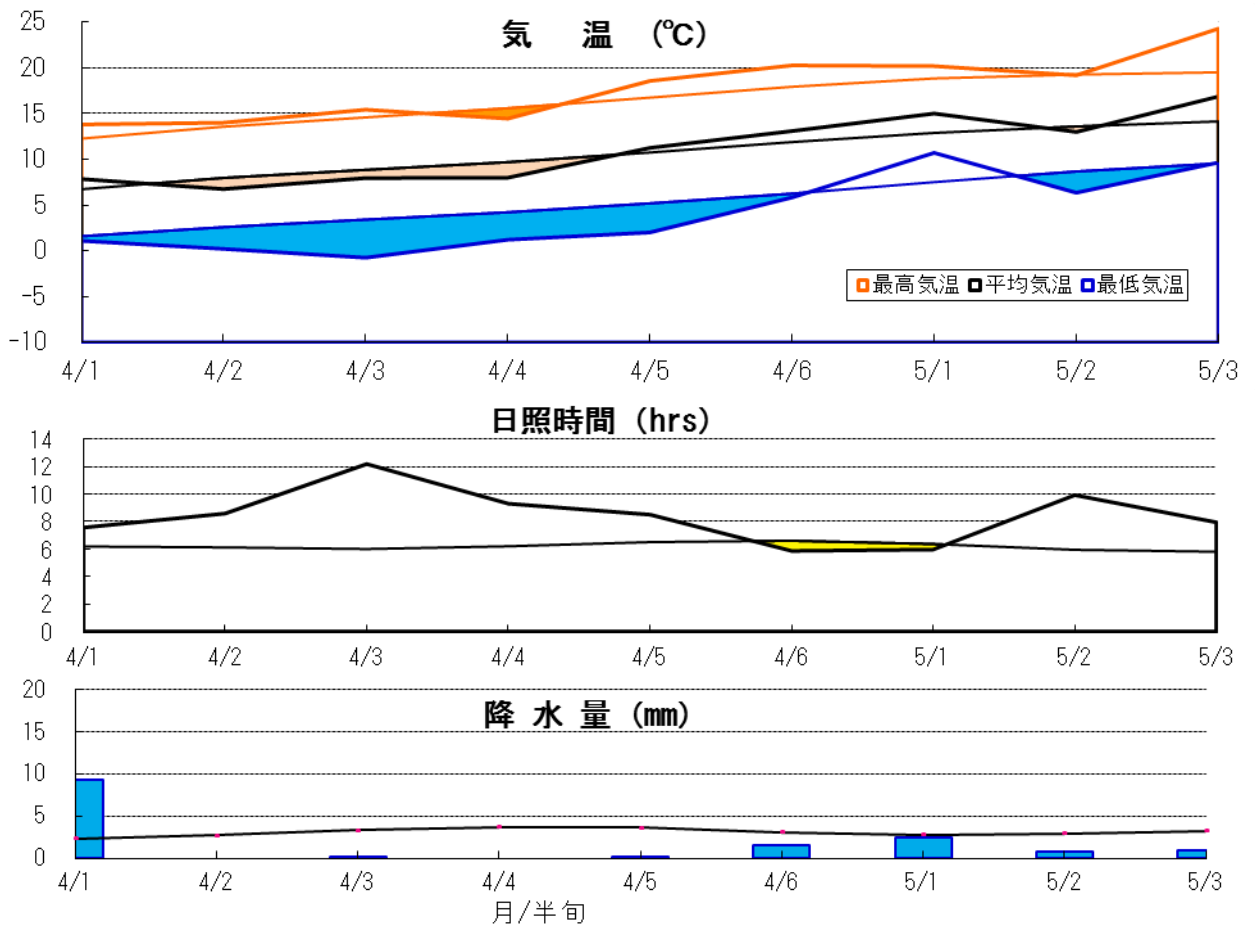


平成 26 年 5 月 15 日
JA 全農みやぎ

稲作情報 2 号

本年の育苗・田植えは、順調に進行！

1 気象経過



(1) 気温

- ・ 4 月は、最低気温が低めに経過したものの、最高気温は後半にかけて高く、平均気温はほぼ平年並みになった。
- ・ 5 月も同様の傾向が続いている。

(2) 日照時間

- ・ 4 月～5 月中旬まで好天が続き、日照時間は多くなっている。

(3) 降水量

- ・ 4 月の降水量は、非常に少なく、乾燥注意報が断続して出された。5 月に入っても、少なく経過している。

2 今後の気象予報

(1) 1か月予報(5月16日～6月16日) 仙台管区気象台

- ・太平洋側では平年に比べ曇りの日が多いでしょう。
- ・向こう1か月の平均気温は、低い確率50%です。
- ・降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。
- ・日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

(2) 週間天気予報(5月16日～5月22日) 仙台管区気象台

- ・気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨となる日が多いですが、期間の中頃は高気圧に覆われて晴れる日があるでしょう。
- ・最高気温は、平年並か平年より低いですが、期間の中頃は平年より高い日がある見込みです。
- ・最低気温は、期間の前半は平年並か平年より低く、後半は平年より高いでしょう。

3 育苗概要

- ・播種盛期は、4月11日で、平年より1日、前年より2日早かった。
- ・播種終期は、4月20日で、平年より±0日、前年より1日早かった。
- ・一部で高温障害等によるカビ等の発生が散見されたが、概ね良好に経過した。
- ・病虫害防除所による育苗期の巡回調査(4/21～23)では、ばか苗病は、平均発病箱率は平年並であるが、発生地点率は平年より高かった。

本年	4月2日	4月11日	4月20日
前年	(4月4日)	(4月13日)	(4月21日)
平年	4月4日	4月12日	4月20日

表-1 播種状況(始期・盛期・周期 県全体)

4 田植の進行状況

- ・5月6日現在、石巻地域が最も早く、34.3%の進行率となっている。
県全体では、12,620haの17.7%となった。
- ・本年の田植え開始時期は、5月4日であり平年並みとなっている。
- ・5月14日現在の県全体の田植進行率は67.6%であり、前年同時期と比べ

てやや進んでいる状況である。

- ・田植盛期は平年と同日の5月11日であり、前年よりは1日早かった。

平成26年 地域別田植え進行状況（県調査より）									
地域 月日 ha	大河原 7,544	仙台 12,726	大崎 20,341	栗原 10,358	登米 11,404	石巻 8,233	気仙沼 779	県計 71,385	県平年
5/3		始	始			始			
5/4	始								始
5/5					始				
5/6				始					
5/6現在の進行率	16.3%	23.4%	20.3%	5.7%	7.6%	34.3%	0.2%	1,262ha	17.7%
5/7									
5/8									
5/9		盛期				盛期			
5/10			盛期						
5/11	盛期								
5/12					盛期				
5/13									
5/14									
5/14現在の進行率	67.4%	67.8%	77.4%	43.8%	63.0%	82.2%	37.2%	48,226ha	67.6%
5/15]								
5/16									
5/17									
5/18									
5/19									
5/20									
5/21									
5/22									
5/23									
5/24									
5/25									

注 地域は、各県振興事務所管内 作付見込面積比 始：5%済 盛：50%済 終：95%済
作付見込面積は農産園芸環境課取りまとめた主食用米の作付け見込み面積

区 分	田植始期 (5%)	田植盛期 (50%)	田植終期 (95%)
本 年	5月4日	5月11日	—
前 年	5月4日	5月12日	5月23日
平 年	5月4日	5月11日	5月20日
平年差	±0日	±0日	—

※ 「田植始期」は作付見込み面積の5%、「田植盛期」は50%、

表－2 地域別田植え進行状況

5 今後の管理

(1) 植え付け本数や補植

- ・適正な穂数や籾数確保のため過繁茂を助長するような大苗では移植せず、3～4本/を目安とする。(田植え機械の設定後実際に調査して再調整する。)
- ・連続した欠株がなければ、労力節減等の面から補植しなくても良い。

(2) 水管理

- ・活着後は、低温が懸念される以外は、2～3cm程度のやや浅水として、水

温上昇を図り、分けつの促進を図ることが基本である。

- ・しかし、肥沃な水田や過剰分けつになり易い地域では、やや深水にするなどして、茎数をコントロールすることも必要である。
- ・中山間部や冷水掛の水田では、特に浅水にして初期の分けつを確保する。

(3) 補植用残苗の処分

- ・気象庁によると6月～7月にかけて、エルニーニョ現象により、低温傾向が懸念されており、いもち病の発生頻度も高まるので動向に注意が必要である。
- ・いもち病の感染源となる補植用残苗が水田内に放置されている圃場が毎年見られるので、補植がすんだら早急に処分する。

(4) 雑草対策のポイント

- ・雑草の発生を抑制するには、耕種的にも除草剤を使う場合も水管理が基本である。
- ・上手な除草剤の使い方のポイントは、水田の水持ち一つにかかっている。
- ・雑草葉令の進展にあった除草剤散布が重要である。
- ・平成25年は、ホライの残草が目立ち、相変わらず難防除雑草の残草割合も高かった。
- ・気温の上昇とともに雑草の生育も早まるので、散布適期を逃さず除草剤の散布作業を進める。